

価格公表業務関連調査研究

枝肉価格と部分肉価格の相関及び部位別価格の季節性等の分析

中間報告

(要約版)

公益財団法人日本食肉流通センター

2020年12月

目 次

中間報告の概要	P 1
1 趣旨	P 3
2 使用データと分析項目	P 3
1) 使用データについて	P 3
2) 分析項目	P 4
ア 枝肉価格とセット価格（重量中央値）の首都圏と近畿圏の比較	P 6
イ 首都圏と近畿圏での枝肉価格とセット価格（重量中央値）の相関関係	P 8
ウ 首都圏と近畿圏でのセット価格（重量中央値）と枝肉価格の回帰式	P 9
エ 枝肉価格及びセット価格帯の推移グラフ	P11
オ 首都圏での豚セットに対する主要な部位肉の比価の推移	P13
カ 首都圏での和牛チルド「3」及び「4」のもも関連部位の価格動向	P14
キ 和牛かたロースの12ヶ月周期の季節変動（価格及び取引重量）	P16
ク セットと主要部位の月間取引重量の相対的な推移	..	P19
主な用語の解説	P20

中間報告の概要

公益財団法人日本食肉流通センターは、2017年4月から部分肉の公表価格の算定方式を変更した。3年余りが経過した機会に、センターで保管しているデータ及び農林水産省の食肉流通統計の資料を使用して、部分肉の近年の価格動向がどのような特徴を有していたかを統計的な手法を活用して明らかにするため、部分肉価格と枝肉価格との相関などの下記の8項目について、分析し、要約したものが「中間報告」である。

分析結果の概要は、以下のとおり。分析の対象期間は、2010年2月～2019年3月までの110ヶ月間。

なお、本報告では、有意確率が0.05未満を統計的に有意水準とみなした。

ア 牛・豚の枝肉価格は、大阪市場の方が東京市場より高かった。一方、牛・豚の部分肉セット（以下、「セット」という。）価格は、首都圏の方が近畿圏より高かった。

価格のばらつきは、セットより枝肉の方が大きく、豚肉より牛肉の方が大きかった。

イ 牛・豚のセット価格は、枝肉価格と正の相関がみられ、枝肉価格が上昇すれば、セット価格が上昇することが統計的に検証された。

ウ 枝肉価格からセット価格を推定する回帰式を求めたところ、統計的に有意な傾きがみられ、セット価格が枝肉価格に連動することが回帰式からも確認された。

エ 首都圏でセット価格が上昇・下降する際、豚肉では重量中央値より安い第1四分位値の上下する幅が重量中央値のものより大きく、一方、牛肉では逆に、重量中央値より高い第3四分位値の上昇幅が重量中央値のものより大きかった。

オ 首都圏の豚肉の部位別価格の推移をみると、対象期間中、「セット」価格が上昇傾向にあった中で、「ばら」の価格上昇率が「セット」のものを上回り、高価格部位である「ロース」や「ヒレ」の価格上昇率が「セット」のものを下回った。「かたロース」、「もも」及び「うで」では「ばら」、「ロース」及び「ヒレ」ほどの大きな価格変化はみられなかった。

カ 首都圏の和牛チルド「4」・「3」のもも関連部位の価格動向をセット価格のものと比較したところ、「4」では「うちもも」、「しんたま」、「らんいち」、「そともも」の価格上昇率が「セット」のものを上回り、「3」では「うちもも」、「しんたま」、「らんいち」、「ももセット」の価格上昇率が「セット」のものを上回る傾向がみられた。

ただし、和牛のもも関連部位以外の部位別の価格でも、セットを上回るものがみられたため、本結果のみでは、赤身志向によりもも関連部位の価格が上昇したとは判断できない。

キ 首都圏の和牛「かたロース」は、12月に価格が顕著に上昇し、取引重量が極端に増加することを対象期間中繰り返していた。

ク 首都圏と近畿圏で、セットと部位別の取引重量の割合を比較したところ、牛・豚肉とも、近畿圏の方が首都圏に比べ、部位別の取引割合が高かった。

謝 辞

中間報告の作成にあたり、使用データの集計及びデータの統計分析等を担当していただきました業務委託先である公益財団法人統計情報研究開発センター並びに統計分析方法の指導等をたまわりました神戸大学大学院農学研究科食料環境経済学講座 国際食料情報学教育研究分野 教授 金子治平様及び中京学院大学 経営学部経営学科 専任講師 仲川直毅様に対しまして、厚く感謝の意を表する次第です。

問い合わせ先

公益財団法人日本食肉流通センター 情報部

所在地 〒210-0869 神奈川県川崎市川崎区東扇島 24 番地
TEL 044 - 266 - 1172 FAX 044 - 266 - 3216
HP <http://www.jmtc.or.jp/>

作成者 常務理事 沖 浩幸, 情報部 石橋 仁